

# 「らしき」輝く附属小



第16号 令和7年 8月29日(金) 校長 森内 秀学

## 8月9日の出来事

被爆80年に当たる今年、8月9日の登校日には、平和学習として、様々な取組を行いました。写真を通して、その一端を御説明しましょう。



一つ目は左。集会室で行った、福島県川内村小中学校の子どもたちと5、6年A組との交流会です。

震災による原発事故で人がいなくなっても、協力して町の復興を目指

していると語る福島の子もたちの姿は、原爆投下後の長崎の人々を見る思いでした。

二つ目は右。これは、校長講話の中で子どもたちに見せた、80年前の長崎師範学校（現附属小）の写真です（長崎原爆学校被災誌より）。爆心地から1.8km離れていてもこんな被害状況だったことを知った子どもたちの驚きは、大きなものがありました。一緒に話を聞いていた川内村小中学校の子どもたちも、原発が身近だけに、考えるところがあったことでしょう。



三つめは左。平和集会のゲストとしてお招きした、本校の卒業生で音楽活動家の、松尾 貴臣さんによる弾き語りの様子です。松尾さんは、橋田教頭先生の高校の時の同級生！驚きのつながりです。



曲名は、「へんぺいそく」。扁平足だったおかげで兵役を免れたおじい様との思い出や、扁平足で生まれたお子さんを通して感じた命のつながりへの感謝を綴った、素敵な歌でした。

サイン入りで寄贈してくださった「へんぺいそく」入りのCDの歌詞カード（右）には、北斗の丘やグランド越しの校舎の写真が載っていました。今の活動の拠点は千葉ですが、本校で過ごした日々が、人生に大きな影響を与えたから載せたのだそうです。

これから10年後、100年後も、本校を巣立つ子どもたちの歩む世界が、平和であることを祈りたいですね。

